

平成23年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	世界トップレベル研究拠点プログラム		担当部署	研究振興局		作成責任者	基礎研究振興課長 内丸 幸喜					
事業開始・終了(予定)年度	平成19年度～		担当課室	基礎研究振興課								
会計区分	一般会計		施策名	VII-4 科学技術システム改革の先導								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)								
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	<p>近年、優れた頭脳の獲得競争が世界的に激化している中で、我が国が科学技術の力で世界をリードしていくためには、優秀な人材の世界的な循環の「環」の中に位置付けられ、内外の研究人材が自然に蓄積されるような研究機関を我が国にも作っていくことが必要である。</p> <p>本事業においては、世界的な著名研究者を拠点長として責任者に位置付け、その下に高いレベルの研究者が結集する、優れた研究環境と高い研究水準を誇る世界トップレベルの研究拠点を形成することを目指す。</p>											
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<p>本プログラムは、大学等を対象とし、高いレベルの研究者を中核とした拠点形成を目指す構想に集中的な支援を行う。研究対象は、基礎研究分野(基礎から応用への展開を目指す分野を含む。)で、複数の分野にまたがる融合領域とする。5年ごとの評価を経た上で、1拠点当たり年間約14億円の支援を10年間(特に優れた拠点については15年間)行う。本プログラムは研究費を提供するプログラムではなく、拠点形成のための基盤的経費を支援するものであり、各拠点には国からの支援額と同程度以上の研究費等のリソースを別途確保することを求めている。本補助金は機関に対する定額補助となっている。</p>											
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他											
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度要求		
		当初予算	7,109	7,109	7,283	8,125	10,053					
		補正予算	0	2,000	0	0						
		繰越し等	0	▲133	17	117						
	計	7,109	8,976	7,300	8,242	10,053						
	執行額	7,108	8,974	7,299								
執行率(%)	100.0%	100.0%	100.0%									
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(32年度)					
	拠点数			拠点数	5	5	6	約10				
	※ 拠点毎の達成度は、5年毎に中間評価を実施し、プログラムの趣旨に添った拠点となっているか厳正な評価を行う。		達成度	%	約50	約50	約60					
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込					
	研究者数 主任研究者数 研究者に占める外国人研究者の割合			活動実績 (当初見込み)	人 人 %	583 116 38	813 125 42	935 153 44	() ()			
	算出根拠		単位当たりコスト=平成22年度補助金額(補正予算含む)7,200万円/研究者数(平成22年度実績)935人									
単位当たりコスト	研究者一人当たりのコスト 770万(円/人)											
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由								
	補助金	8,006百万円	9,898百万円	新たな戦略的展開等に伴う増1,892百万円								
	事業委託費	116百万円	151百万円									
	職員旅費等	2.1百万円	3.8百万円									
	計	8,125百万円	10,053百万円									

※四捨五入により、各費目の合計額は一致していない。

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	-	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>大学の学長や、学長経験者、ノーベル賞受賞者、産業界、そして著名外国人有識者3割以上を含むプログラム委員会(委員長:井村裕夫[元京都大学総長])において、プログラム・ディレクター(PD)及び各拠点のプログラム・オフィサー(PO)が行う報告及び各拠点長やホスト機関長等からのヒアリングを基に、毎年厳格な評価を行っており、手厚いフォローアップを実施している。フォローアップは、各拠点による自己評価書の提出、PD及びPOに加えて外国人研究者を半数程度含む専門家から構成される作業部会によって実施されるサイトビジット等を通じて丁寧な進捗状況の把握、そしてそれら全てを踏まえた上で実施される上記のプログラム委員会による専門的な助言及び指導というように、複層的かつきめ細やかに行われている。</p> <p>現状としては、本フォローアップによる助言及び指導等に真摯に対応することにより、毎年の改善に繋げることに成功している。</p> <p>また、平成23年度には平成19年度に採択された拠点について中間評価を行い、世界トップレベル研究拠点の着実な形成に向け、必要に応じ更なる改善を図る予定である。</p> <p>事業全体としても、平成22年度には新たに1拠点を採択し、事業の目的達成に向け、着実に進捗している。</p> <p>※なお、本事業は事業仕分け第3弾の評価結果を受け、平成23年度予算より非競争的資金として整理されている。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点:この事業は、国の内外から高いレベルの研究者が結集する世界トップレベルの研究拠点の形成を目指す競争的資金である。</p> <p>2. 所見:この事業は、新規採択拠点に対する経費の平年度化に伴う増は認められるものの、かわりに、業務支援に関する委託費について、平成21年度レビュー等の指摘を踏まえ、23年度において予算の縮減を図るとともに、現地調査により詳細に進捗状況を確認しながらより円滑に事業が遂行できるよう現場の声をくみ上げるなど一定の見直しを図ったことは評価するものの、引き続き、事業の効果的・効率的な実施を目指し、事業の重点化、コスト縮減等に努めるべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>世界から「目に見える拠点」となっているかを定量的に把握するため実施しているアンケート調査は、毎年実施し、経年変化を分析する計画であったが、厳しい財政状況及び上記の所見も踏まえ、アンケート全体計画の効率化の検討を行った結果、毎年ではなく隔年又は数年のインターバルを置いて行い長期的な動向を調査することとし、更なるコストの縮減に努めた。この見直しにより、概算要求に▲10百万円反映した。</p>			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p>【事業仕分け第1弾の評価結果】 事業番号・事業名: 3-22 競争的資金(外国人研究者招へい)(世界トップレベル研究拠点(WPI)プログラム) WGの評価結果: 予算要求の縮減 とりまとめコメント: 世界トップレベル研究拠点(WPI)プログラムについては、廃止2名、予算計上見送り1名、予算要求通り1名、予算要求の縮減7名で、縮減のうち半額縮減が2名、1/3縮減が4名、その他1名との内訳であった。この中では、新規要求の拠点については実施しないという意見があった。当WGは、予算要求の縮減を結論とする。</p> <p>【事業仕分け第3弾の評価結果】※「とりまとめコメント」については、WPIに関するコメントが無いため省略 事業番号・事業名: A-24 競争的資金 WGの評価結果: (制度)見直しを行う (予算)予算要求の縮減(1割程度)</p> <p>【事業紹介ホームページ(文部科学省ホームページ)】 http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/toplevel/index.htm</p> <p>【事業紹介ホームページ(日本学術振興会ホームページ)】 http://www.jsps.go.jp/j-toplevel/index.html</p>			

文部科学省
7,299百万円

職員旅費 1.1百万円
外国旅費 0.03百万円
庁費 0.6百万円

を含む

世界的な著名研究者を拠点長として位置付け、その下に高いレベルの研究者が結集する、優れた研究環境と高い研究水準を誇る世界トップレベルの研究拠点を形成することを目指す。



【公募・補助】

【企画競争・委託】

A.世界トップレベル研究
拠点プログラム事業
大学、独立行政法人
全：6機関 7,217百万
円

採択された大学及び独立行政法人
へ、世界トップレベルの「目に見える」
研究拠点の形成に必要な補助金を交
付する。

B.世界トップレベル研究
拠点プログラム支援事
務
日本学術振興会
80百万円

プログラムを効率的・効果的に推進し
ていくため、拠点の採択に必要な審
査・プログラムの実施に必要な評価、
プログラム管理業務を委託する。

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位：百万円)

A.京都大学			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	拠点長、事務部門長及び主任研究者等給与	652			
事業推進費	招へい研究者の研究環境整備のための経費、国際シンポジウム開催等	340			
間接経費		311			
旅費	学会への出席に伴う国内旅費・外国旅費、招へい旅費、赴任旅費等	30			
設備備品等費	超高分解能光学顕微鏡等	17			
計		1,350	計		0
B.日本学術振興会			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
業務実施費	諸謝金(プログラム委員等への諸謝金)	23			
	雑役務費(事務補助員雇上、アンケート調査)	12			
	旅費(国内旅費、外国旅費、外国人等招へい旅費、招へい外国人滞在費)	10			
	会議開催費(消耗品等、通信運搬費、印刷製本費、電子計算機諸費、消費税相当額)	7			
	その他(消耗品、通信運搬費、印刷製本費、電子計算機諸費、消費税相当額等)	4			
人件費	担当職員給与	17			
一般管理費	プログラム委員会開催費	7			
計		80	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A. 大学、独立行政法人

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	京都大学	物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS)	1,350	-	-
2	東北大学	原子分子材料科学高等研究機構 (AIMR)	1,350	-	-
3	東京大学	数物連携宇宙研究機構 (IPMU)	1,350	-	-
4	大阪大学	免疫学フロンティア研究センター (IFReC)	1,350	-	-
5	物質・材料研究機構	国際ナノアーキテクニクス研究拠点 (MANA)	1,350	-	-
6	九州大学	カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 (I2CNER)	450	-	-

※ 補助事業、四捨五入により合計額は一致しない。

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本学術振興会	プログラムの審査・管理・評価に関する業務	80	企画競争	-